

長唄×浄瑠璃

唄と語りの芸くらべ

獅子が出るか

蛇が出るか

演目

トーク 「語り物と唄い物」

長唄 「越後獅子」

浄瑠璃 「日高川入相花王 渡し場の段」

(安珍・清姫伝説)

2025年
11/9 日 16:00～17:30

●100 席限定

満席の場合、ご入場いただけません。

会場 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

料金 2,000 円

小学生～高校生は 1,000 円

※未就学児の入場はお断りいたします。

主催 阿波路会・阿波十郎兵衛屋敷

出演

浄瑠璃 阿波路会

太夫 竹本友和嘉

三味線 鶴澤友勇

長唄 徳島佐苗会・青の会

お問合せ
チケット販売

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦 184

電話 088-665-2202, Fax.088-665-3683

浄瑠璃／出演者と演目紹介

阿波路会 あわじかい

義太夫節三味線の間人国宝、故鶴澤友路師に師事した徳島の太夫・竹本友和嘉と淡路人形座の三味線奏者・鶴澤友勇が、伝統芸能である語り音楽「義太夫節」の魅力を広めていこうと平成26年に立ち上げた女流義太夫会。自主公演のほか、新作・復活演目の公演、他ジャンルとのコラボなど積極的に活躍の場を広げている。両者共に、重要無形文化財（総合認定）保持者。

ひだかがわりあいざくら

●演目「日高川入相花王 渡し場の段」

この作品は道成寺に伝わる安珍清姫の伝説をもとにした物語です。皇位継承をめぐる争いから命をねらわれる身となった桜木親王は、山伏安珍となり、紀州の真那古の庄司の家にかくまわれていましたが、そこで恋人のおだまき姫と再会し、二人で道成寺へ向かいます。安珍を慕っていた庄司の娘、清姫は月明かりの中、必死で二人を追いかけます。ようやく日高川の渡し場にたどり着く清姫ですが、船頭は川を渡してくれません。安珍が船頭に金を渡し、「清姫が来ても川を渡さないように」と頼んでいたのです。それを知った清姫は悲しさのあまり泣き伏しますが、その恋しさと悲しさは、やがて怒りに変わり、清姫は恐ろしい大蛇に変身し、川へ飛び込み泳いでいくのでした。



太夫 / 竹本友和嘉、三味線 / 鶴澤友勇

長唄／出演者と演目紹介

徳島佐苗会・青の会

1965年、東京・長唄佐門会 五世杵屋佐吉師より、主宰杵屋佐篠に「佐苗会」の名をいただき、伝統文化、郷土芸能の普及・発展、邦楽の若手担い手の育成を目的として発足。県内の講座等で長唄、三味線、端唄の指導を行うとともに、阿波文化である「阿波踊り」の「よしこの」「ぞめき」も指導。夏には新町川にて屋形船演奏を、阿波踊り初日には徳島城博物館庭園にて「三味線流し」を行い、しっとりとした風情を伝えている。

また、芸術家派遣事業では小・中学校にて三味線体験事業の講師を務める。地域においても「こども三味線教室」「こども邦楽（三味線）」事業を実施。未来を担うこども達が、日本文化や郷土芸能に親しみをもち、阿波文化の伝承へと繋がる活動している。

●出 演

監 修／杵屋 佐篠
唄 杵屋佐田篠、杵屋佐伴苗
三味線／杵屋佐世篠、杵屋佐恵
杵屋佐津伴

●演目「越後獅子」

文化8年／松井幸三 作詞※／九代目 杵屋六左衛門 作曲
越後の国、現在の新潟県から出て来た角兵衛獅子が、胸に太鼓を付け、獅子頭を被り、おけさ踊りや布晒しなど面白い芸を見せるという踊りの曲です。箏曲から趣向を借り、一夜で作られた作品ですが、角兵衛獅子の境遇、越後名物や鄙びた風情、獅子の芸で賑わう様子が盛り込まれており、よく演奏されている長唄の代表的な曲です。三味線は主旋律を奏でる「本手」に対して、「替手」と言われる旋律は、各流派で趣向を凝らし、打合せと言われる手法は重奏効果が巧く表現されています。

※作詞者名 出典「日本音楽大事典」

徳島佐苗会・青の会



●お問合せ・チケット販売

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 徳島市川内町宮島本浦 184 Tel. 088-665-2202 Fax. 088-665-3683 <http://joruri.info/jurobe/>